

経済情勢 (10月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、一部に足踏みがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、米国の通商政策の影響、日中関係の動向、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（10月）は前年を上回った
設備投資	機械受注（10月）は、前年を上回った 2025年度の設備投資は前年を上回る見通し
公共投資	公共工事請負額（10月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（10月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内で推移している
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

(中国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（10月）は前年を上回った
公共投資	公共工事請負額（10月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（10月）は前年を下回った
生産動向	低水準にあるものの持ち直しに向けた動きがみられる
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(10月)

景気動向指数(全国CI)は、一致指数は2か月連続で上昇、先行指数は6か月連続で上昇した。

景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、全国は6カ月連続で上昇、中国は3カ月連続で上昇した。

● 景気動向指数(CI)

(一致指数)

- 115.4 (前月差+0.5 ポイント) と2か月連続で上昇。

(2020年=100)



CI 一致指数(前月差) 0.5

(先行指数)

- 110.0 (前月差+1.8 ポイント) と6か月連続で上昇。

(2020年=100)



CI 先行指数(前月差) 1.8

指標名 寄与度

指標名	寄与度
耐久消費財出荷指	0.36
鉱工業生産指	0.23
商業販売額(小売業)	0.19
鉱工業用生産財出荷指	0.18
営業利益(全産業)	0.12
商業販売額(卸売業)	0.03
労働投入量指(調査産業計)	0.00
輸出数量指	▲0.06
投資財出荷指(除輸送機械)	▲0.17
有効求人倍率(除学卒)	▲0.38

指標名 寄与度

指標名	寄与度
鉱工業用生産財在庫率指(逆)	0.69
新設住宅着工床面積	0.62
日経商品指(42種総合)	0.23
消費者態度指	0.20
マネーストック(M2)	0.18
東証株価指	0.13
最終需要財在庫率指(逆)	▲0.03
新規求人(除学卒)	▲0.16
中小企業売上げ見通しDI	▲0.16
実質機械受注(製造業)	
投資環境指(製造業)	

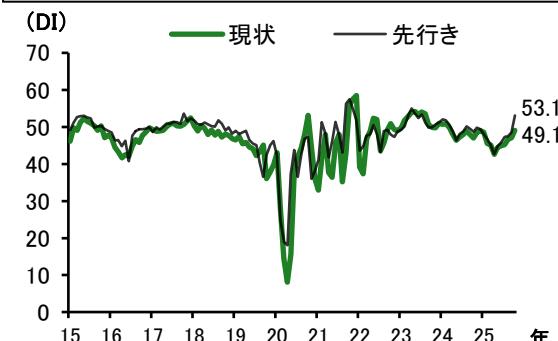
注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するためを作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3つの指標がある。

● 景気ウォッチャー調査(DI)

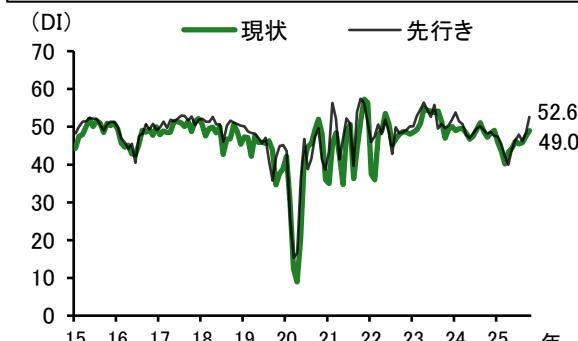
(全国)

- 現状判断DIは、49.1 (前月差+2.0 ポイント) と6カ月連続で上昇。
- 先行判断DIは、53.1 (前月差+4.6 ポイント) と6カ月連続で上昇。



(中国)

- 現状判断DIは、49.0 (前月差+1.4 ポイント) と3カ月連続で上昇。
- 先行判断DIは、52.6 (前月差+4.2 ポイント) と2カ月連続で上昇。



注: 1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

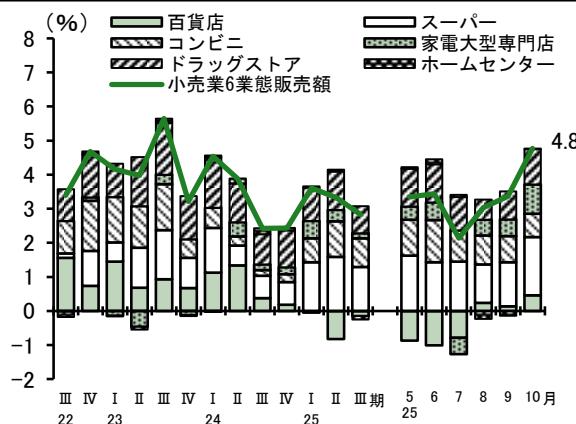
2. 季節調整値

2. 個人消費（10月）

全国、中国ともに、一部に足踏みが残るもの、持ち直しの動きがみられる。

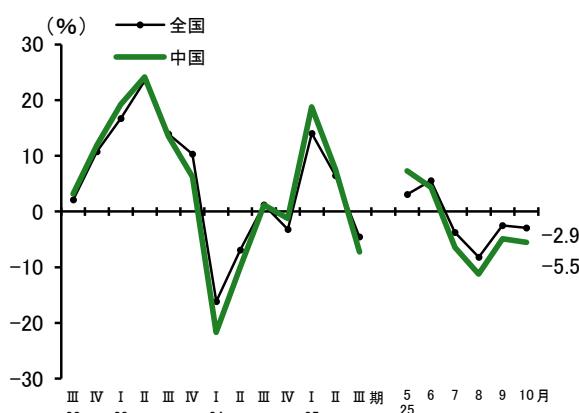
● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) スーパー、ドラッグストアなどを中心に増加し、47カ月連続で前年比プラス（前年同月比+4.8%）。小売業6業態全体の消費傾向としては、買い上げ点数の減少や安価商材へのシフトといった節約志向がみられるものの、コメなどを中心に食料品価格の高騰が販売額を押し上げている。



● 新車登録・届出台数（乗用車）[対前年伸び率]

- (全国) 軽乗用車が増加したものの、普通、小型乗用車が減少し、4カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲2.9%）。新型車効果により軽乗用車が好調だったものの、一部メーカーで発生している納期の長期化などのマイナス要因が全体を押し下げた。
- (中国) 軽乗用車が増加したものの、普通、小型乗用車が減少し、4カ月連続で前年比マイナス（同▲5.5%）。新型車効果により軽乗用車が好調だったものの、一部メーカーで発生している納期の長期化などのマイナス要因が全体を押し下げた。



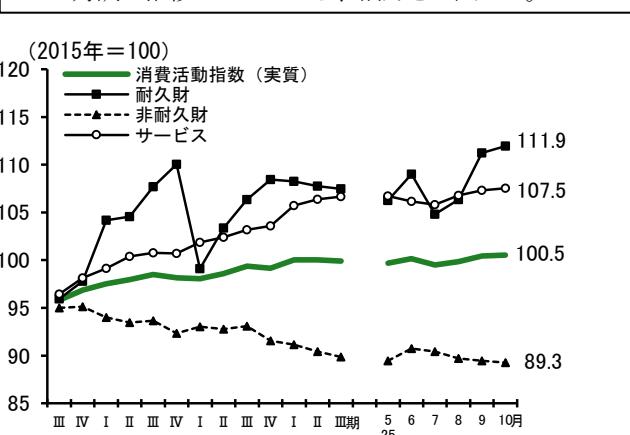
注: 持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度

資料: 国土交通省「建築着工統計調査報告」

● 消費活動指数（実質）

(全国)

- 消費活動指数（季節調整済）は100.5（前月比+0.1%）と、3カ月連続で前月を上回った。
- 耐久財は、スマホやパソコンなどが好調に推移したことなどから、前月を上回った。
- 非耐久財は、衣料品や食料品が低調に推移したことなどから、前月を下回った。
- サービスは、飲食業などが低調だったものの、宿泊業などが好調に推移したことから、前月を上回った。



4. 設備投資・公共投資（10月）

機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに前年を上回った。

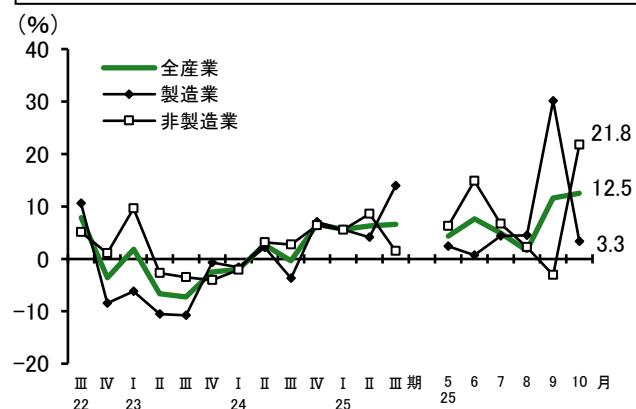
公共工事請負額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

2025年度の設備投資は、全国、中国ともに前年を上回る見通し。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- 13カ月連続で前年比プラス（前年同月比+12.5%）。
- 製造業（同+3.3%）は、パルプ・紙・紙加工品などが減少したものの、非鉄金属、電気機械などが増加したことから、13カ月連続で前年比プラス。
- 非製造業（同+21.8%）は、大型案件のあった運輸業・郵便業が大きく増加したほか、金融業・保険業なども増加したことから、2カ月ぶりに前年比プラス。



5. 輸出・輸入(10月)

輸出金額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

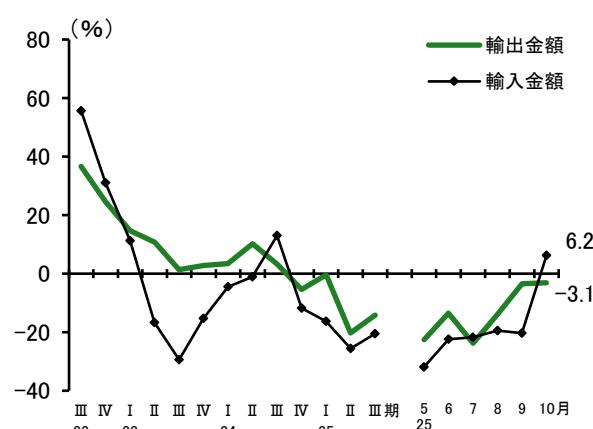
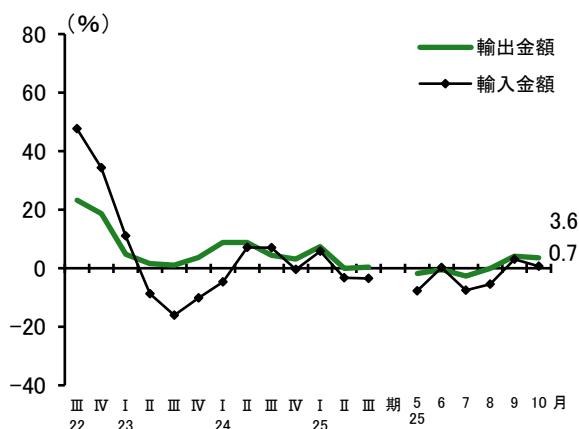
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出金額は2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.6%)。円安への振れ等が輸出金額を押し上げた。米国向けの半導体等製造装置などが減少したものの、AI需要の高まりなどを受けてアジア向けを中心に半導体等電子部品が増加したほか、欧州向けの原動機なども増加した。
- 輸入金額は2カ月連続で前年比プラス(同+0.7%)。医薬品や原粗油などが減少したものの、米国からの航空機類や、原動機などが増加した。

(中国)

- 輸出金額は9カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲3.1%)。船舶(タンカー)や自動車が増加したものの、半導体等製造装置などが減少した。ただし、円安等による輸出金額の押し上げに加え、欧米向けの自動車が持ち直しつつあることから、マイナス幅は縮小傾向にある。
- 輸入金額は9カ月ぶりに前年比プラス(同+6.2%)。原粗油などが減少したものの、非鉄金属や石油製品(揮発油)などが増加した。



注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

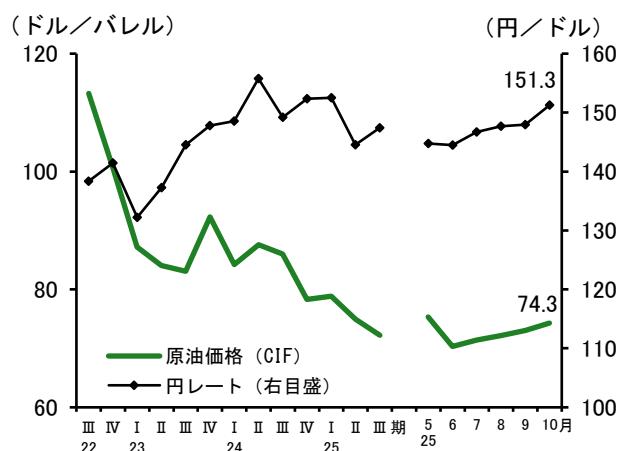
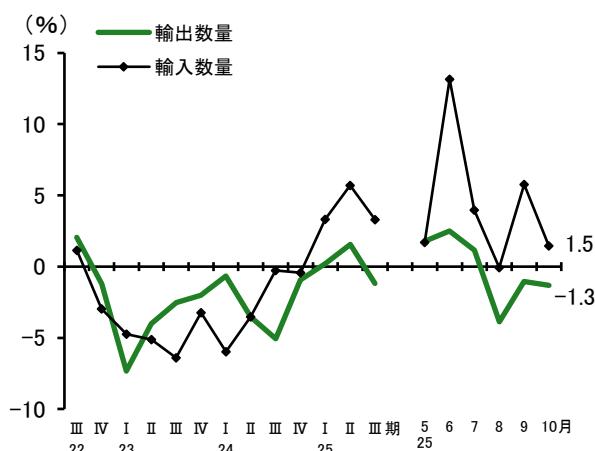
● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出数量は3カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲1.3%)。
- 輸入数量は2カ月連続で前年比プラス(同+1.5%)。

● 原油価格・円レート

- 原油価格は74.3ドル/バレルと前年に比べ5.9ドル低下(前月に比べ1.2ドル上昇)。
- 円レートは151.3円/ドルと前年に比べ1.7円の円安(前月と比べると3.3円の円安)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)
3. 原油価格は全日本通関CIF価格
4. 円レートは東京外為市場の銀行間中心レートの月中平均値
資料: 財務省「貿易統計」

6. 生産動向（10月）

（全国）横ばい圏内で推移している。

（中国）低水準にあるものの持ち直しに向けた動きがみられる。

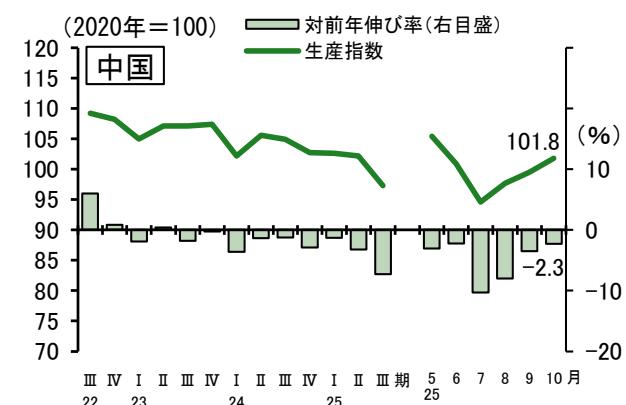
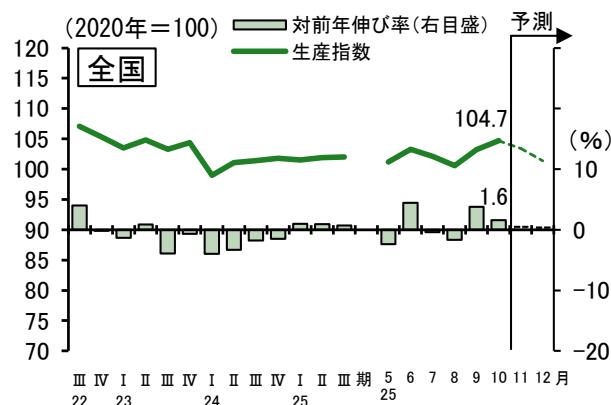
● 鉱工業生産指数（総合）

（全国）

- 生産指数（季節調整済）は、104.7（前月比+1.4%）と2カ月連続で前月を上回った。化学や汎用・生産用・業務用機械などが低下したものの、米国の追加関税が引き下げられたことなどを受けて自動車が生産増となつたほか、電気機械なども上昇した。
- 生産指数（原指数）は前年同月比+1.6%と2カ月連続でプラスとなった。

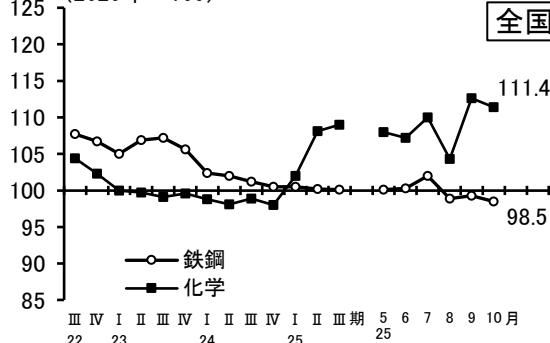
（中国）

- 生産指数（季節調整済）は、101.8（前月比+2.3%）と3カ月連続で前月を上回った。半導体等製造装置など汎用・生産用・業務用機械が低下したものの、米国の追加関税の影響が緩和されたことや新型モデルへの切替に伴う需要増などを受けて自動車が上昇した。
- 生産指数（原指数）は、前年同月比▲2.3%と7カ月連続でマイナスとなった。

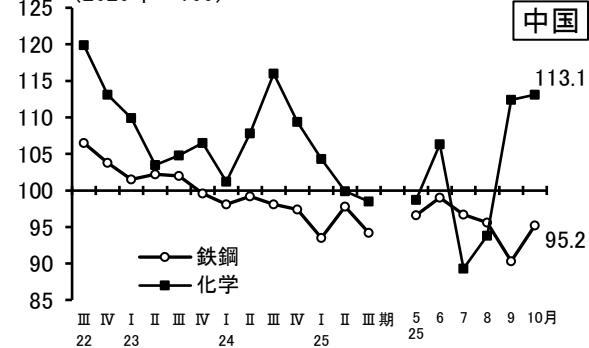


● 鉱工業生産指数（素材）

（2020年=100）

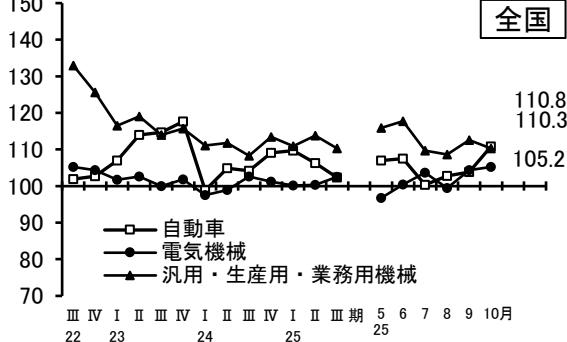


（2020年=100）

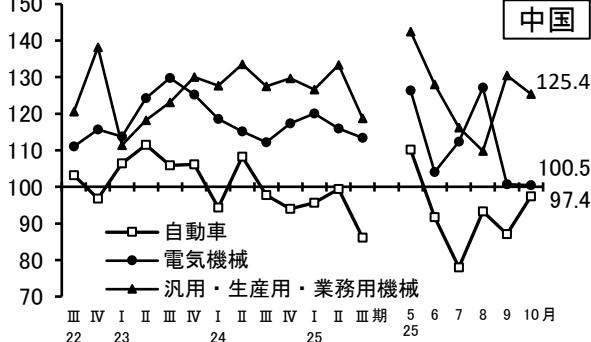


● 鉱工業生産指数（機械）

（2020年=100）



（2020年=100）



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値 5. 全国は2023年4月確報分、中国は2024年1月速報分より、鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された 6. 「電気機械」は全国では1995年基準の業種分類を適用（電気機械工業・情報通信機械工業・電子部品・デバイス工業の合計） 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では「旧分類」はん用・生産用・業務用機械工業、中国では「汎用・業務用・生産用機械工業」 8. 「自動車」は中国では「自動車（乗用車・トラック・主要部品）」

資料：経済産業省「鉱工業（生産・出荷・在庫）指標確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

7. 雇用情勢(10月)

全国、中国ともに、改善の動きに足踏みがみられる。

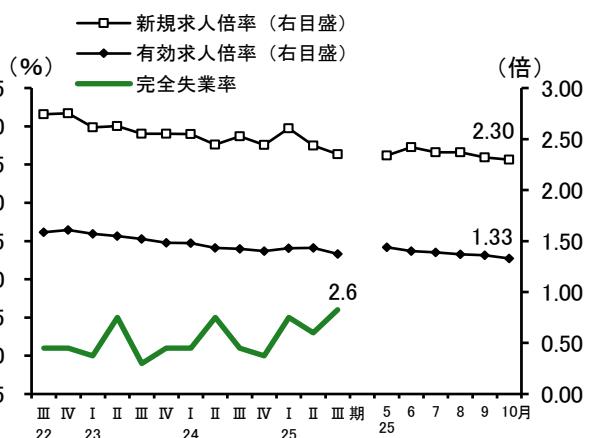
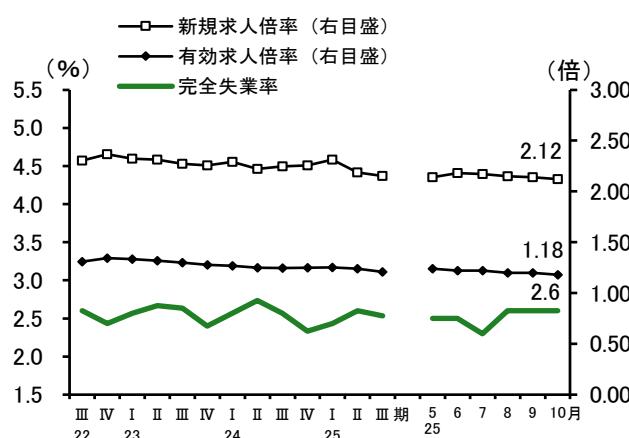
● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

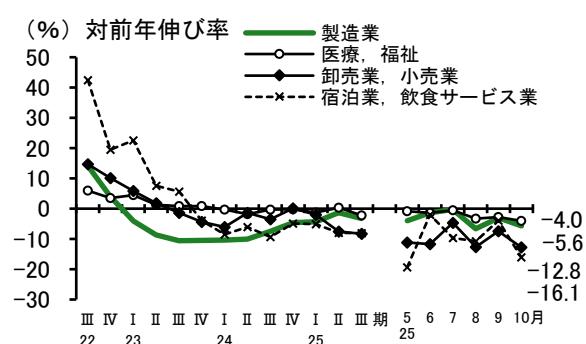
- ・完全失業率は2.6% (前月差±0.0 ポイント) と横ばい。
- ・有効求人倍率は1.18倍 (同▲0.02 ポイント) と2カ月ぶりに低下した。
- ・新規求人倍率は2.12倍 (同▲0.02 ポイント) と4カ月連続で低下した。

(中国)

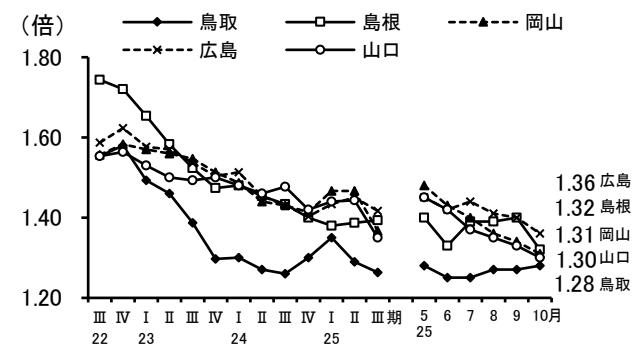
- ・有効求人倍率は1.33倍 (前月差▲0.03 ポイント) と6カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.30倍 (同▲0.02 ポイント) と2カ月連続で低下した。



主要産業における新規求人件数の推移(全国)



有効求人倍率の推移(中国5県)



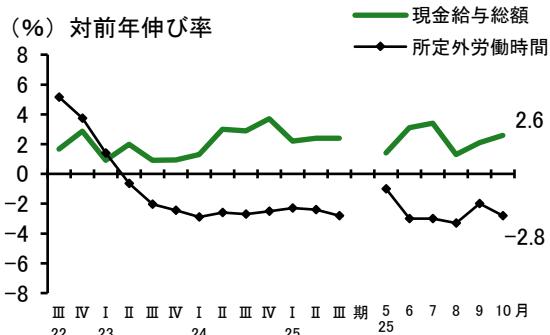
注: 完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値

資料: 総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は46カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.6%)。
- ・所定外労働時間は、28カ月連続で前年比マイナス(同▲2.8%)。うち製造業は4カ月連続で前年比マイナス(同▲0.7%)。



注: 1. 事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」